



日本企業の強さと弱さ

令和6年2月4日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

日本企業の弱さは、非効率性であり、海外の企業が自己のシステム化を行うことに対して、いまだアナログ的な自己環境に自己を有することをあげられる。

また新しい技術と機能性という西洋的な発想に対して、既存現実がいまだ存在することである。

これらはビジネス世界における遥かに想像に勝るスピードにおける変化に対してその和さを与えるものである。

これらは合理主義における製品の低価格と大量販売という西洋的な発想に対して、高価格と低数量における販売という、非合理的な現実が対比されるものである。

これらは黒船というグローバルスタンダードが存在することを理解するべきである。

これらは企業のシステム化と販売環境の整備、高い利益性の海保など、グローバル基準における企業経営への到達を日本企業における最後の挑戦として求められると考える。

他方において強さは、組織化とその経営という現実である。これらは経営チームにおける意識のコンセンサスが、それら強みを未来へ飛躍できると考える。これらは理解と経営基準という企業の変革がこれらグローバル基準における世界市場への参加を可能とできると考えるものである。

これらはグローバル基準における企業経営への転換であり、それら基準における企業経営の確立なのである。また次世代と独創性という新しいビジネスの潮流へ、自己企業の風土を構築できれば、右ならえにおける日本企業の風土がそれらの現実に対してより優れた自己を実現できると考えるものである。

これらは企業の生き残りや企業努力の最終的なゴールであることは一つの真実と考える。勝ち組と負け組は、グローバル基準における更なる洗礼を自己に与えられなくてはならないのである。